井上辰雄博士とその著作

荊木美行

〈要旨〉平成二十七年十一月に亡くなった井上辰雄博士は、戦後を代表する日本古代史の研究者である。博士は、熊本大学・筑波大学などに在職して、日本古代史に関するすぐれた論文・著書を多数発表し、同時に、多くの後進を育成した。博士の研究は多岐にわたるが、正税帳の研究、宗教的部民の研究、令集解諸説の成立に関する研究、『常陸国風土記』の研究がその代表的なものであり、このほかにも、晩年は、多くの一般向けの著作を著わした。小論では、井上博士の著作リストを附し、利用者の参考に供した。

〈キーワード〉筑波大学　日本古代史　正税帳　部民制　風土記

筑波大学名誉教授の井上辰雄先生が亡くなった。先生は、昭和三年十月、現在の東京都豊島区のお生まれ。昭和二十一年四月に東京高等師範学校に入学し、同二十四年三月に卒業、四月から東京大学に進学された。同大学では、坂本太郎博士のご指導の下、日本古代史の研究に邁進し、同二十七年三月に文学部国史学科を卒業されている。その後も、東京大学大学院（旧制）に進学して研鑽を積まれたが、昭和三十二年三月には大学院を満期退学。四月からは川村女子

短期大学講師に着任し、翌年一月には助教授に昇格されている。さらに、昭和三十五年四月からは、熊本大学法文学部助教授（昭和四十六年六月には教授昇格）として熊本に赴任し、昭和五十年まで十五年間勤務。在任中には、熊本県文化財保護専門委員・大宰府発掘指導委員などを歴任し、地域の文化財行政にも貢献された。

昭和五十年五月には、開学間もない筑波大学歴史・人類学系教授に迎えられ、平成四年三月に退官されるまで、十七年間同大学に奉職された。在任中は、歴史・人類学研究科長、人文学類長、第一学群長など、学内の要職を歴任し、学内行政にも尽瘁しておられる。

なお、筑波大学退官後は、城西国際大学人文学部教授となり、招聘教授を経て同十七年三月まで同大学に在勤し、大学の発展に尽力された。

城西国際大学退職後は、もっぱら著述活動に専念されたが、一般向けの読みやすい啓蒙書や事典類だけでなく、本格的な研究書も刊行し、その執筆意欲は、平成二十七年十一月に亡くなるまで衰えることはなかった。

○

井上先生の著作で好きなものをあげろといわれると困惑してしまう。なにしろ、先生の論文は若いころずいぶん耽読したので、それらは研究者としての筆者の血となり肉となったものばかりである。だから、愛着を感じるものも少なくないのだが、はじめて読んだ『火の国』（学生社、昭和四十五年十月）は、いまでも印象に残っている。ちょっと意外に思われるかも知れないが、個人的に好きなのは、一般向けの『『常陸国風土記』の世界　古代史を読み解く一〇一話』や『万葉びとの心と言葉の事典』である。古典に登場する一つの語句を導入として、関聯するさまざまなことがらを縦横に展

開する叙述は、あたかも蚕が美しい絹を紡ぎだすかのごとくで、まさに知の世界に遊ぶ心地がする。読んでいて飽きることを知らない。博引旁証だが、けっして衒学的なところがなく、その智識の広がりは読むものを魅了する。まさに学殖豊かな先生の独擅場である。学問が細分化し、個々の研究者が自身の専門領域で緻密な研究を積み上げていくスタイルが確立した昨今では、こうした文章を書ける歴史学者はあまりおられないのではないかと思う。

ついでにいうと、晩年に遊子館から出された書き下ろしの単著十一冊は、先生のご著書のなかでは格段に文章が読み易い。これは、先生が一般向けのご著書であることを意識して執筆されたからであろうが、それに加えて、遊子館の編輯子の支えもあったのではないかと推測する。先生の原稿を叮嚀に校閲し、ときに先生に修正をお願いするようなこともあったのではないかと思うが、生前にこの点をご確認する機会がなかったのは残念である。

○

先生の著作の特色の一つに、書き下ろしの単行本の多いことがあげられる。古代史の研究者の著書は、既発表の論文をまとめたスタイルのものが多いのだが、先生の場合、驚くほどたくさんの書き下ろしがある。遊子館から刊行された一連の遊子館歴史叢書や辞典類もそうだし、古くは学生社刊行の『火の国』『隼人と大和政権』、教育社の『古代王権と語部』『熊襲と隼人』などもそうである（『古代王権と語部』は一部既発表の論文をベースにしている）。これらは、先生の健筆ぶりを示して餘蘊がない。

学者のなかには書くことを苦にするかたもいらっしゃるが、先生の場合、そんな気配は微塵もなかった。それどころか、書くことを無上の悦びとしておられたかのごとくである。研究を業務の一貫と考えているようなかたのなかには、

退職後書くことを放擲してしまうケースもある。ところが、井上先生の場合、退職後にますます筆が冴えるのである。察するに、先生にとって、執筆活動とは、冥利とは無縁の、生きがいのようなものだったのではあるまいか。

ちなみに、平成十四年に『熊本日々新聞』の朝刊に連載された「古今の夢」は、先生のご健筆を象徴している。これは、一月三日から十二月三十日までほぼ毎日、歴史に題材を取りつつ、先生の該博な知識を披露されたエッセイである。一回四百五十字ほどの小さなコラムだが、これを毎日綴ることは、アイデアや構想もさることながら、気力と筆力がなければ、到底なしえないことである。

こうした書き下ろしに注がれた情熱にくらべると、既発表の論文を整理して、論文集を編むことにはあまり執着されない印象があった。最初の論文集である『正税帳の研究　律令時代の地方政治』、学位論文の『古代王権と宗教的部民』はそれまで発表した論文をまとめたものだが（それでも、両方とも新稿がかなり盛り込まれている）、以後は、数多くの論文を毎年のように発表しながらも、ついにそれらを本にされることはなかった。先生にとっては、一度発表すればそれで論文の使命は尽きたと考えておられたのかも知れない。つぎつぎと新しい構想が浮かび、それを追いかけることに夢中で、過去を振り返る間などなかった、というのが偽らざるところであろう。

○

先生の論文は、駆け出しの若手にはちょっととっつきにくいところがあった。とくに、先生が『正税帳の研究　律令時代の地方政治』で扱われた正税帳は、天平年間の諸国の収支決算報告書で、原文は数字の羅列であり、それも大字で書いている。数字に弱い筆者などは、最初の帳簿の復原研究で挫折してしまう。そのため、若いころには、この本の良

さがわからなかったところがある。しかし、一見無味乾燥の帳簿の記載から、古代の地方政治の実態を描き出す手法はじつに鮮やかで、こちらも年齢を重ねて読み返すと、あらためてその面白さを味わうことができることも一再ではなかった。

ただ、正直申し上げると、先生の論文は、啓蒙書とはちがい、ちょっと読み辛いところがある。

まず、先生の論文は、概して長文である。たとえば、『古代王権と宗教的部民』は四百五十頁を超える大冊だが、収録論文はわずかに六篇。一篇平均八十頁の大作ばかりである。長さはともかく、これらの論文には細かい章立てなどない場合が多く、結論として自説の要点やまとめを附すものもあまりない。たとえば、前掲書収録の「大化前代の中臣氏」などは、組み上がりが七十頁を超える長編だが、書き出しから終わりまでまったく見出しも章節もない。筆者も、馴れないうちは、なかなか読むのが大変だった記憶がある。ただ、先生のご研究には、こうした読み辛さを克服してまで読破するだけの価値がある。これから先生の論文に取り組もうとする若い研究者も、その点をご承知おきいただきたい。

なお、若い読者のために老婆心ながら申し上げておくと、『正税帳の研究　律令時代の地方政治』（塙書房、昭和四十二年十一月五日初版）の初版・再版には、残念ながら誤植が多い。なかには、「薗田香融」が「菌田香融」となっているなど、ユーモラスな誤植もある。これらは、昭和五十七年九月十五日発行の三刷で、当時大学院の学生だった早川万年氏らのお骨折りにより数百箇所訂正されたので、おもとめになるなら、古書で三刷を探すか、それをもとに現在出ているオンデマンド版かをお勧めしたい。

○

なお、井上先生のご著作については、微力ながら、二度ほど直接かかわる機会に恵まれた。一度は、拙編著『令集解私記の研究』の刊行のときである。同書は、『令集解』所引の令釈・讃記・跡記・穴記などの成立時期に関する論文を集成したもので、多くの先生方の協力を得て完成した。井上先生の一連の論考もこのときお願いしてすべて収録させていただいた。原論文の誤植や表現の不備については、数度に及ぶゲラの遣り取りの過程でかなり手を入れていただいたので、いわばこれが先生の論文の決定版である。幸い、集解諸説に関する先生のお説は本書から引用されることが多く、先生の学説の普及に貢献できたことはうれしかった。ただ、この本も、現在は品切れで、古書価格も高騰しているので、折をみて復刊したいと思う。

いま一度は、遺著になった『慶滋保胤』である。脱稿された原稿を小生のもとにお送りくださったのは、亡くなる一年ほど前のことである。「出版したいので、適当な出版社を探して折衝してほしい」とのことであった。小生などが先生のご本の出版にかかわるのは分不相応な気がしたが、わざわざご指名くださったのは光栄なことなので、直ちに二三の出版社に刊行を打診した。井上先生のご著書なら、と企画に意欲をみせる出版社もあったが、データで入稿してほしいとの希望であった。先生は亡くなるまで著述にパソコンをお使いになることはなく、原稿はすべて手書き。小生のところにお送りいただいた原稿も、二百字詰原稿で一千四百枚ほどの自筆原稿であった。

そこで、小生が暇をみつけては入力していったのだが、なにしろ厖大な量で、かんたんには終わらなかった。ほぼ全文の原稿の入力を完了し、内校も終えたので、先生にそれをご覧にいれようと思い、ご自宅にお電話したのが、平成二十七年二月一日のことであった。じつは、この日、先生は退院されたばかりであった。退院されたとはいえ、お声に

は元気がない。そのような状態の先生に出版の話を切り出すのはいかがかと思われたので、原稿の入力が終わったこと、いずれ先生にもご確認いただきたいことなどをお伝えして電話を切った。ただ、その後、先生は入退院を繰り返し、十一月二十三日にお亡くなりになったので、ついに入力したデータをお目にかけることはできなかった。八月のお見舞いの際にも、「ご退院後は、ぜひお目通しを」と申し上げると、先生は頷いておられたが、それは実現しなかった。

せっかく託された玉稿を生前にご出版できなかったのは、返す返すも残念だったが、平成二十八年五月七日におこなわれた先生を偲ぶ会に合わせて刊行することとなり、遺著として関係者のかたにお配りすることができたのはせめてもの幸いであった。刊行までに多くのかたがたのお世話になったが、本文の校正では早川万年氏に、略歴では中野目徹氏に、先生の著作目録（増補して、小論に附載）の作成では堀部猛氏に、それぞれ多大なご苦労をおかけした。ここにそのことを特記して、もってお礼にかえたい。

先生は、ご健勝で体格にも恵まれておられた。研究旅行などでごいっしょする際には、その大きなお背中を頼りについて行けば、はぐれることも道を失う心配もなかった。

思えば、研究もおなじであった。先生の書かれたものを羅針盤として、その方向性を頼りに自分も研究を重ねていけば、けっして道を誤ることはなかった。その意味で、先生のご著書は、まさにその後ろ姿のそのものであった。

もはやあのお背中を追うことがないのは寂しいかぎりだが、先生が遺された著作は不朽である。それらは、いまなお、高みからわれわれ門下生を導いてくださるのである。

合掌

井上辰雄博士著作目録（稿）

【凡例】

一、井上博士の生前の業績のうち、日本古代史に関するものを中心に、「著書」「編著・監修」「論文」「その他」「辞書項目」に分類し、発表年月日順に排列した。ただし、発行月日のない論文についてはおなじ発行年の刊行物の最後に、発行日付のない論文についてはおなじ年月の刊行物の最後に、それぞれ排列した。

一、長期にわたる連載については、初回掲載の年月日にかけて一括して掲げた。

一、論文名における一重カギ・二重カギの使い分けやその他記号の用法については、おおむね原論文の表記にしたがった。

一、雑誌の特集にかかわる論文の場合は、備考欄に特集テーマを記載した。

一、論文のなかで、その後『正税帳の研究　律令時代の地方政治』『古代王権と宗教的部民』『平安初期の文人官僚』『嵯峨天皇と文人官僚』に収録されたものについては、「備考」欄に「→正税帳」「→部民」「→文人」「→嵯峨」として示した。

【著書】

書　名	出版社	発行年月日	備　考
正税帳の研究　律令時代の地方政治	塙書房	昭和四十二年十一月五日	昭和五十七年九月十五日発行の三刷で大幅な誤植訂正あり。
火の国	学生社	昭和四十五年十月十日	古代の国々1
隼人と大和政権	学生社	昭和四十九年二月十日	
熊本県の地名―風土と由来―　上	熊本日日新聞社	昭和五十三年五月二十日	熊日選書。『熊本日日新聞』紙上の連載をまとめたもの。
熊襲と隼人	教育社	昭和五十三年六年二十日	教育社歴史新書〈日本史〉8
熊本県の地名―風土と由来―　下	熊本日日新聞社	昭和五十三年七月五日	熊日選書。『熊本日日新聞』紙上の連載をまとめたもの。

書名	出版社	発行年月日	備考
古代王権と語部	教育社	昭和五十四年十月二十日	教育社歴史新書〈日本史〉24
古代王権と宗教的部民	柏書房	昭和五十五年六月二十一日	学位請求論文。主査直江廣治、副査芳賀登・伊藤博。
日本古代史と遺跡　総解説	自由国民社	昭和五十九年八月七日	第四章「継体王朝の時代」ほかを分担執筆。本書は、のち平成十三年八月三十日に『日本古代史の謎・総解説　全訂新版』（自由国民社）として改版・再刊。
常陸国風土記にみる古代	学生社	平成元年八月十日	
天皇家の誕生　帝と女王の系譜	遊子館	平成八年二月二十二日	遊子館歴史選書3
『常陸国風土記』の世界　古代史を読み解く一〇一話	雄山閣出版	平成十二年三月三十一日	
古今の夢	私家版	平成十五年二月三日	奥付は「平成十五年二月三日写」とある。『熊本日日新聞』紙上の連載をまとめたもの。
平安儒者の家　大江家のひとびと	塙書房	平成十六年三月二十五日	
古事記のことば　この国を知る134の神語り	遊子館	平成十九年三月三日	遊子館歴史選書5
古事記の想像力　神から人への113のものがたり	遊子館	平成二十年十月三十日	遊子館歴史選書10
茶道をめぐる歴史散歩	遊子館	平成二十一年五月十五日	遊子館歴史選書12
図説和歌と歌人の歴史事典	遊子館	平成二十二年三月一日	
在原業平　雅を求めた貴公子	遊子館	平成二十二年十月二十八日	遊子館歴史選書14
嵯峨天皇と文人官僚	塙書房	平成二十三年二月二十五日	
万葉びとの心と言葉の事典	遊子館	平成二十三年七月十五日	
平清盛と平家のひとびと	遊子館	平成二十四年五月二十一日	遊子館歴史選書15
平安初期の文人官僚―栄光と苦悩―	塙書房	平成二十五年三月二十五日	

【編著・監修】

書　名	出版社	発行年月日	備　考
地方の古代史1　西海編	朝倉書店	昭和五十二年九月一日	井上辰雄編集。一「総説―古代史における九州の意義―」三「邪馬台国」を分担執筆。
大日本名家全書	青潮社	昭和五十二年十一月一日	井上辰雄監修。監修者の「序」あり。明治三十六年四月二十八日発行の『大日本名家全書』全七巻（好古社）を合本復刻したもの。
日本歴史地図（原始・古代編）下	柏書房	昭和五十七年七月二十五日	竹内理三・井上辰雄・加藤晋平・坂誥秀一・佐々木銀彌・平川紀一編。
日本歴史地図（原始・古代編）上	柏書房	昭和五十七年十月二十五日	竹内理三・井上辰雄・江坂輝弥・加藤晋平・小林達雄・坂誥秀一・佐原眞編。
日本歴史地図〈原始古代編〉別巻　考古遺跡遺物地名表	柏書房	昭和五十八年四月二十日	竹内理三・井上辰雄・江坂輝彌・加藤晋平・小林達雄・坂誥秀一・佐々木銀彌・佐原眞・平川紀一編。
古代中世の政治と地域社会―筑波大学創立十周年記念日本史論集―	雄山閣出版	昭和六十一年九月五日	井上辰雄編。
古代史研究の課題と方法	国書刊行会	平成元年十月十三日	井上辰雄編。「はしがき」も執筆。
新編日本史料集	東京学習出版社	平成元年十一月二十日	井上辰雄編。
古代東国と常陸国風土記	雄山閣出版	平成十一年六月五日	井上辰雄編。古稀記念論文集
日本文学史蹟大辞典1（地図編）	遊子館	平成十三年三月二十九日	井上辰雄・大岡信・太田幸夫・牧谷孝則監修。日本文学史蹟大辞典編集委員会編。
日本文学史蹟大辞典2（地名解説編）	遊子館	〃	〃
日本文学史蹟大辞典3絵図編（上巻）	遊子館	平成十三年九月十七日	〃
日本文学史蹟大辞典4絵図編（下巻）	遊子館	〃	〃
日本文学地名大辞典散文編（上巻）	遊子館	平成十五年七月十八日	井上辰雄監修。日本文学地名大辞典刊行会編。「監修のことば」あり。
日本文学地名大辞典散文編（下巻）	遊子館	〃	井上辰雄監修。日本文学地名大辞典刊行会編。

書名	出版社	発行年月日	備考
日本難訓難語大辞典	遊子館	平成十八年十二月二十二日	井上辰雄監修。日本難訓難語編集委員会編。「監修のことば」あり。
日本難字異体字大字典文字編	遊子館	平成二十四年一月一日	井上辰雄監修。日本難字異体字大字典編集委員会編。「監修のことば」あり。
日本難字異体字大字典解読編	遊子館	〃	井上辰雄監修。日本難字異体字大字典編集委員会編。
古今の夢	遊子館	平成二十八年五月七日	平成十五年二月刊行の改訂版。経歴と編著書・監修リストを附す。
慶滋保胤	私家版	平成二十八年五月八日	「井上辰雄博士略歴」「井上辰雄博士著作目録（稿）」を附す。

【論文】

論文名	掲載誌	発行年月日	備考
古代史部会に寄せて	『歴史学月報』三八	昭和二十八年十一月一日	
『ミヤケ制の政治史的意義』序説	『歴史学研究』一六八（歴史学研究会）	昭和二十九年二月十五日	原島礼二編『論集日本歴史』第一巻「大和政権」（有精堂出版、昭和四十八年一月二十日）に再録。
藤間生大著「日本武尊」	『歴史学研究』一六七（歴史学研究会）	〃	書評
古代籍帳より見たる大宝戸令応分条の一考察―中田博士の所説を中心として―	『日本歴史』七二（日本歴史学会）	昭和二十九年五月一日	
大宝二年の豊前国戸籍をめぐる諸問題	『日本史研究』二二（日本史研究会）	昭和二十九年十月一日	
古代　日本	歴史学研究会編『歴史学の成果と課題Ⅴ 一九五三年歴史学年報』（岩波書店）	昭和二十九年十一月二十日	古代・封建・近代の時代区分によりつつ、それぞれ日本・東洋・西洋にわかれるが、そのうちの「古代」日本の部にあたる。

論文名	掲載誌	発行年月日	備　考
紀元節復活の風潮について	『歴史学研究』（歴史学研究会）一七九	昭和三十年一月十五日	時評
天平期をめぐる諸問題	『歴史学研究』（歴史学研究会）一八二	昭和三十年四月十五日	月報
古代戸籍	『日本史の研究』（山川出版社）一一	昭和三十年十二月五日	「教授資料」のコーナー
大会後の二、三の感想	『歴史学研究』（歴史学研究会）一八五	昭和三十年七月十五日	
林屋辰三郎著『古代国家の解体』	『歴史学研究』（歴史学研究会）一九三	昭和三十一年三月十五日	書評
磐井の叛乱と南鮮	歴史学研究会・日本史研究会編『日本歴史講座』Ⅰ（東京大学出版会）	昭和三十一年六月二十五日	
古代の労働組織	石母田正・後藤守一編『日本考古学講座』六「歴史時代（古代）」（河出書房）	昭和三十一年四月二十五日	
北山茂夫・吉永登編著「日本古代の政治と文学」	『史學雑誌』第六六巻第四号（史学会）	昭和三十二年四月二十日	批評と紹介
倭の五王について	『日本史の研究』（山川出版社）一九	昭和三十二年十二月一日	
塩沢君夫著「古代専制国家の構造」	『歴史評論』一〇二	昭和三十四年二月一日	「質問欄」というコラム。質問者岡崎克樹（岡山県関西高校教諭）解答者井上辰雄（川村女子短大講師）」とある。 新刊紹介。執筆者名の「井上辰男」は誤植。
〈奈良朝庶民生活史への疑問〉奈良朝奴隷制への疑問	井上光貞ほか『真説日本歴史』第二巻（雄山閣出版）	昭和三十四年十月二十五日	
大化の詔の「調」について―「田の調」「戸之調」を中心として―	『東方古代研究』一〇（東方古代研究会）	昭和三十五年十二月二十日	

論文名	掲載誌	発行年月日	備考
日本史　古代（3）一九六一年の歴史学界―回顧と展望―	『史学雑誌』第七一巻五号（史学会）	昭和三十七年五月二十日	
大化前代の肥後―部民制を中心として―	『法文論叢』史学篇（熊本大学法文会）一四	昭和三十七年六月一日	→正税帳
戸令応分条の成立	坂本太郎還暦『日本古代史論集』下（吉川弘文館）	昭和三十七年九月二十五日	
天平八年薩摩国正税帳の一考察―隼人統治を中心として―（上）（下）	『続日本紀研究』九―一〇・一一一〈通巻一〇六・一〇七号〉（続日本紀研究会）	昭和三十七年十月三十一日、昭和三十七年十一月三十日	→正税帳
政治史より見たる屯倉制の発展	石母田正・泉靖一・井上光貞・太田秀通・西嶋定生・秀村欣二・三笠宮崇仁・三上次男・和島誠一編『古代史講座』八「古代の土地制度」（学生社）	昭和三十八年八月十五日	
令釈をめぐる二、三の問題	『続日本紀研究』一〇―八・九合併号〈通巻一一六・一一七号〉（続日本紀研究会）	昭和三十八年九月三十日	のちに荊木美行編『令集解私記の研究』（汲古書院、平成九年三月）に再録。
跡記及び穴記の成立年代	『続日本紀研究』一二二（続日本紀研究会）	昭和三十九年八月二十日	のちに荊木美行編『令集解私記の研究』（汲古書院、平成九年三月）に再録。
豊後国正税帳の諸問題（一）・（二）	『続日本紀研究』一二五・一二六（続日本紀研究会）	昭和四十年二月二十日・四月二十日	→正税帳
筑後国正税帳の諸問題	『法文論叢』史学篇（熊本大学法文会）一八	昭和四十年六月一日	→正税帳

論文名	掲載誌	発行年月日	備　考
古代製塩の生産形態―肥公五百麿を中心として―	熊本大学法文学部国史科同窓会編『原田敏明先生古稀記念国史論叢』（熊本大学法文学部国史科同窓会）	昭和四十年十二月二十日	→正税帳
古代の隠岐―天平元年隠岐国郡稲帳の復元をめぐって	『世界史研究』四〇・四一・四二（世界史研究会）	昭和四十一年一月三十一日	→正税帳
弥永貞三編『日本経済史大系1・古代』	『日本歴史』二一三（日本歴史学会）	昭和四十一年二月一日	書評と紹介
長門国正税帳をめぐる諸問題（上・下）	『日本歴史』二一二・二一四（日本歴史学会）	昭和四十一年二月一日・同四十一年三月一日	→正税帳
大倭正税帳をめぐる諸問題	『法文論叢』史学篇（熊本大学法文会）二〇	昭和四十一年七月三十一日	→正税帳
「朱説」を中心として	『新訂増補国史大系月報』五二	昭和四十一年八月	新訂増補国史大系24『令集解』後編（昭和四十一年十一月三十日発行）附録。のちに荊木美行編『令集解私記の研究』（汲古書院、平成九年三月）に再録。
九州の古代豪族―その類型的考察―	『古代文化』一七巻三号（古代学協会）	昭和四十一年九月三十日	九州古代史特輯（1）
紀伊国正税帳をめぐる諸問題	『正税帳の研究』（塙書房）	昭和四十二年十一月五日	論文集新稿
駿河国正税帳をめぐる諸問題	〃	〃	〃
伊豆国正税帳をめぐる諸問題	〃	〃	〃
伊賀国正税帳をめぐる諸問題	『法文論叢』史学篇（熊本大学法文会）一三一	昭和四十三年一月三十一日	
但馬国正税帳をめぐる諸問題	『熊本史学』三四（熊本史学会）	昭和四十三年七月一日	
直木孝次郎著『奈良時代史の諸問題』	『史學雑誌』第七八巻第三号（史学会）	昭和四十四年三月二十日	書評

論文名	掲載誌	発行年月日	備考
屯倉経営の進展―大和朝廷の地方経営	『日本と世界の歴史』4「6・7世紀　大化改新　隋ビザンツ帝国」（学習研究社）	昭和四十五年一月一日	
筑・豊・肥の豪族と大和朝廷	鏡山猛・田村圓澄編『古代の日本』三「九州」（角川書店）	昭和四十五年二月二十八日	
隼人と宮廷	〃	〃	
筑紫の大宰と九国三島の成立	〃	〃	
「民部省式」をめぐる諸問題	『日本歴史』二六二（日本歴史学会）	昭和四十五年三月一日	
竹内理三博士還暦記念会編「律令国家と貴族社会」	『日本歴史』二六三（日本歴史学会）	昭和四十五年四月一日	
越前国郡稲帳をめぐる諸問題	遠藤元男博士還暦記念日本古代史論叢刊行会編『遠藤元男博士還暦記念日本古代史論叢』（日本古代史論叢刊行会）	昭和四十五年四月三十日	
大宰府の木簡	『日本歴史』（日本歴史学会）二六六	昭和四十五年七月一日	〈口絵解説〉
大宰府発掘の概要	『歴史と地理』一八〇「日本史の研究」（七〇）（山川出版社）	昭和四十五年九月二十日	文化財めぐり
地方豪族の反乱	竹内理三編『古代の日本』一「要説」（角川書店）	昭和四十六年一月十五日	
大王から天皇へ	〃	〃	
地方豪族の歴史的性格―水間君をめぐる諸問題―	『日本歴史』二八〇（日本歴史学会）	昭和四十六年九月一日	

論文名	掲載誌	発行年月日	備　考
「令集解」雑考―「令釈」「穴記」を中心として―	坂本太郎博士古稀記念会編『続日本古代史論集』中巻（吉川弘文館）	昭和四十七年七月一日	のちに荊木美行編『令集解私記の研究』（汲古書院、平成九年三月）に再録。
古代の奴隷	『日本の歴史』二「飛鳥古京」（研秀出版）	昭和四十八年四月一日	「歴史余話」の項目。
隼人支配	大林太良編『日本古代文化の探求　隼人』（社会思想社）	昭和五十年一月三十日	
「道君首名」研究ノート―「良吏」とその歴史的背景―	『法文論叢』史学篇（熊本大学法文会）三六	昭和五十年三月二十五日	
菊池川流域の祭祀遺跡―岩倉と隠りの穴―	『東アジアの古代文化』（大和書房）五	昭和五十年六月二十五日	
籍帳	杉山博・芳賀登・池永二郎編『地方史マニュアル』4「郷土資料の活用」（柏書房）	昭和五十年九月十日	
地方豪族の神話と祭祀	『東アジアの古代文化』（大和書房）七	昭和五十年十二月二十五日	のち大林太良・吉田敦彦他著『古代史と日本神話』（大和書房、平成八年十一月三十日）に再録。
吉備叛乱伝承の歴史的背景	『歴史人類』一（筑波大学歴史・人類学系）	昭和五十二年三月	発行日はなし。表紙に「西山松之助先生退官記念論文集〔一〕」とあり。
東国と大和政権―常総地方を中心として―	『日本歴史』三四〇（日本歴史学会）	昭和五十一年九月一日	
古代語部考―その性格と伝承―／「古代王権」	『歴史人類』四（筑波大学歴史・人類学系）	昭和五十二年九月	発行日はなし。↓部民
総説―古代史における九州の意義―	井上辰雄編『古代の地方史』一（朝倉書店）	昭和五十二年九月一日	
邪馬台国	〃	〃	

論文名	掲載誌	発行年月日	備考
神話と王権　地方神話―菊池川	『国文学　解釈と鑑賞』（至文堂）四二―一二	昭和五十二年十月一日	
日置考―その職掌と性格―／「古代王権と宗教的部民」	井上光貞博士還暦記念会編『古代史論叢』上巻（吉川弘文館）	昭和五十三年九月二十日	→部民
九州の地名「朝倉」考	民俗の思想を考える会編集『フォクロア』五（ジャパン・パブリッシャーズ）	昭和五十三年十月十日	総特集　地名
天の岩戸考―こもりの思想	海音寺潮五郎著者代表『新日本史探訪』第二集（角川書店）	昭和五十三年十二月二十日	李進熙氏との対談（構成・水谷慶一）。のち、角川書店編『日本史探訪』（角川書店、昭和五十八年二月二十五日）に再録。
大化前代の東国―筑波国造を中心として―	『えとのす』一一（新日本教育図書）	昭和五十四年一月十日	
卜部の研究―その伝承と性格―	『歴史人類』六（筑波大学歴史人類学系）	昭和五十四年二月	発行日はなし。 →部民
関東と北九州の古代豪族	『東アジアの古代文化』一九（大和書房）	昭和五十四年四月二十五日	特集　鉄剣銘文と古代国家
古代の日本と朝鮮の〝卵生神話〟	『昭和五十三年度一般研究紀要』第一集「東アジア諸民族交渉史の基礎的研究」	昭和五十四年三月	刊記なし。ただし、昭和五十四年三月九日の岡本敬二氏の「序」あり。
地名の考古学―我孫子考―	『歴史百科五　日本地名事典』（新人物往来社）	昭和五十四年五月二十日	
熊襲と大和政権	『歴史読本』第二四巻第六号（新人物往来社）	昭和五十四年五月十日	特集「古代国家誕生の謎」

論文名	掲載誌	発行年月日	備　考
多（太）氏・古代氏族・古代祭祀	『東アジアの古代文化』二〇（大和書房）	昭和五十四年七月二十五日	特集「古代の暦と太安萬侶の墓誌」。金井塚良一氏との対談（司会・大和岩雄）。のち、『金井塚良一対談集　古代東国の原像』（新人物往来社、平成元年三月一日）に再録。）
日奉（祀）部の研究―その伝承と性格―	『歴史人類』七（筑波大学歴史人類学系）	昭和五十四年十月	発行日はなし。↓部民
装飾横穴墓をめぐる豪族とその性格＝丈部の役割	『えとのす』一三（新日本教育図書）	昭和五十五年二月二十五日	特集　古代東国の横穴墓
隼人からみた古代日本	江上波夫・川崎庸之・西嶋定生編『八世紀の日本と東アジア』4「律令制と国家」（平凡社）	昭和五十五年四月二十日	
シンポジウム　周辺民族と律令国家	〃	〃	〈出席者〉井上辰雄（司会）・栗原朋信・高橋富雄
大化前代の中臣氏	『古代王権と宗教的部民』（柏書房）	昭和五十五年六月二十一日	論文集新稿
忌部の研究	〃	〃	〃
太陽祭祀と古代氏族―日置部を中心として―	『東アジアの古代文化』二四（大和書房）	昭和五十五年七月三十日	特集　日本古代の太陽祭祀と方位観。のち松前健・白川静他著『古代日本人の信仰と祭祀』（大和書房、平成九年一月五日）に再録。
多氏同族の伝承と性格	国分直一博士古稀記念論集編纂委員会編『国分直一博士古稀記念論集　日本民族文化とその周辺』歴史・民族篇（新日本教育図書）	昭和五十五年十月一日	

論文名	掲載誌	発行年月日	備　考
九州風土記と天皇伝説	『歴史公論』第七巻第一号〈通巻六二〉（雄山閣出版）	昭和五十六年一月一日	
風土記からみた地方政治	『歴史公論』第七巻第七号〈通巻六二〉（雄山閣出版）	昭和五十六年七月一日	
「8豪族と古墳」「9県主・国造と県・屯倉」「10部民」「15防人」「16壬申の乱」「19律令制下の地方組織（1）・（5）～（8）」「23特産物」「25金石文」	『日本歴史地図（原始・古代編）』下（柏書房）	昭和五十七年十月二十五日	このうち、「9県主・国造と県・屯倉」は小沼健司氏、「10部民」「16壬申の乱」「19律令制下の地方組織（1）・（5）～（8）」は早川万年氏、「15防人」は金恩淑氏、「23特産物」「25金石文」は増尾伸一郎氏との共著。
邪馬台国	『日本歴史地図（原始・古代編）』上（柏書房）	昭和五十七年十月二十五日	早川万年氏との共著。
天の岩戸考　こもりに見る古代の生命観	角川書店編『新日本史探訪』第二集（角川書店）	昭和五十八年二月二十五日	李進熙氏との対談（構成・水谷慶一）。海音寺潮五郎著者代表『新日本史探訪』第二集（角川書店、昭和五十三年十二月二十日）の文庫化。
古代と地名	『日本の地名―その由来と文化―』（東京電力株式会社お客さま相談室）	昭和五十八年二月	日付は記載なし。「第18期婦人セミナー要旨」
日本古代一（一九八二年の歴史学界―回顧と展望）	『史學雑誌』第九二巻第五号	昭和五十八年五月二十日	
古代の芸能民たち	『歴史公論』第九巻第一二号〈通巻九七〉（雄山閣出版）	昭和五十八年十一月一日	
大和政権と九州の大豪族―その統治政策を中心として―	九州歴史資料館編『九州歴史資料館開館十周年記念大宰府古文化論叢』上巻（吉川弘文館）	昭和五十八年十二月二十日	

論文名	掲載誌	発行年月日	備　考
『常陸国風土記』をめぐる二、三の問題―建郡（評）と里制を中心として―	遠藤元男先生頌寿記念会編『遠藤元男先生頌寿記念　日本古代史論苑』（国書刊行会）	昭和五十八年十二月三十日	
阿蘇神社・国造神社・草吉神社・疋野神社・八代神社・北岡神社・藤崎八旗宮	谷川健一編『日本の神々　神社と聖地』第一巻九州（白水社）	昭和五十九年四月十日	平成十二年六月二十五日に新装復刊。
大和政権はいつ東国を服属させたか	『歴史読本臨時増刊号』第二九巻第一〇号（新人物往来社）	昭和五十九年六月十日	
推古朝の外交	高校通信東書〈日本史・世界史〉一〇二（東京書籍）	昭和五十九年六月一日	
大和王権と壬生部	『東アジアの古代文化』四一（大和書房）	昭和五十九年十月三十一日	特集　古代豪族と王権
「日本史」のなかの蝦夷と隼人	『歴史公論』第一〇巻第一二号〈通巻一〇九〉（雄山閣出版）	昭和五十九年十二月一日	井上辰雄・大林太良・谷川健一による座談会。
古代地方史の研究―戸籍・計帳と村落生活―	地方史研究協議会編『新版地方史研究必携』（岩波書店）	昭和六十年五月三十一日	
稲（米）をめぐる古代日本人の観念	『月刊考古学ジャーナル』二四八（ニュー・サイエンス社）	昭和六十年六月三十日	特集　弥生文化の再考
第二章日本第二節古代	国際歴史学会議・日本国内委員会編『日本における歴史学の発達と現状Ⅵ―歴史学主要文献一九七八―一九八二―』（山川出版社）	昭和六十年九月二十日	

論文名	掲載誌	発行年月日	備　考
常陸国風土記の成立　編纂と成立	『えとのす』二八（新日本教育図書）	昭和六十年十月一日	『えとのす』28は「常陸国風土記の世界」特集号で、岩崎卓也・井上辰雄両氏の編輯。
常陸の豪族	〃	〃	〃
藤原朝臣宇合	〃	〃	〃
倭国大乱―二～三世紀に起こった九州から西日本全域に及ぶ抗争とは何であったか―／広開土王との戦い―古代朝鮮半島をめぐり倭国と高句麗はどのような戦いを繰り広げたのか―／国内反乱と任那滅亡―海外植民地任那の新羅による併合が日本の国内支配体制に与えた影響は何か―	『日本の戦乱・事変・騒動・総解説』（自由国民社）	昭和六十年十一月二十日	〃
『常陸国風土記』編纂と藤原氏	井上辰雄編『古代中世の政治と地域社会』（雄山閣出版）	昭和六十一年九月五日	同書「序文」も執筆。
出雲大神の神域	『東アジアの古代文化』五〇（大和書房）	昭和六十二年一月三十一日	刊行日付なし。『神道大系』神社編五十「阿蘇・英彦山」（昭和六十二年二月二十六日）附録
大和王権と阿蘇君	『神道大系』月報（神道大系編纂会）六三	昭和六十二年二月	刊行日付なし。
熊襲と隼人	『昭和61年度筑波大学学内プロジェクト研究報告書　古事記の総合研究』（筑波大学古事記研究会　代表中西進）	昭和六十二年三月	書評と紹介
中村明蔵著『熊襲・隼人の社会史研究』	『日本歴史』四六七（日本歴史学会）	昭和六十二年四月一日	田村圓澄編『古代を考える　大宰府』（吉川弘文館）
天下の一都会	昭和六十二年五月十日		

論文名	掲載誌	発行年月日	備　考
古代高良の祭神と信仰	田村圓澄先生古稀記念会編『東アジアと日本』宗教・文学編（吉川弘文館）	昭和六十二年十二月一日	
大和王権と日向の豪族	『古代を考える』四七（古代を考える会）	昭和六十三年三月十一日	特集「古代日向の検討」。「報告2」として掲載、直後の「討論2」にも出席・発言あり。
常陸国風土記と駅制	岩崎宏之研究代表『近世常総地域における都市形成と地域的特質にかんする研究』	昭和六十三年三月	文部省科学研究費補助金（一般研究B）研究成果報告書（課題番号六〇四五〇〇四六）
額田部と大和王権	鶴岡静夫編『古代史論集2　古代王権と氏族』（名著出版）	昭和六十三年八月三十日	
古代熊本の風土と地名	全国地名シンポジウム熊本大会実行委員会編『古代熊本の風土と地名』（全国地名シンポジウム熊本大会実行委員会）	昭和六十三年六月十六日	乙益重隆・井上辰雄・工藤敬一・甲元真之・板楠和子・田辺哲夫諸氏による昭和六十一年十一月十六日に全国地名シンポジウム熊本大会でおこなわれたパネルディスカッションの速記録。
大嘗祭と語部の「古詞」	『別冊歴史読本』第一三巻第二〇号「図説天皇の即位礼と大嘗祭」（新人物往来社）	昭和六十三年十一月十五日	特集　古代天皇家と宗教の謎
古代人の死生観	『歴史読本　臨時増刊』第三三巻第二四号（通巻四九一号）（新人物往来社）	昭和六十三年十二月五日	
日下部をめぐる二、三の考察	『日本歴史』四八八（日本歴史学会）	昭和六十四年一月一日	

論文名	掲載誌	発行年月日	備　考
多（太）氏・古代氏族・古代祭祀	『金井塚良一　対談集　古代東国の原像』（新人物往来社）	平成元年三月一日	金井塚良一氏との対談（司会・大和岩雄）。『東アジアの古代文化』二〇（昭和五十四年七月）収録の対談の再録。
藤原不比等一族と田辺史	『史境』一八（歴史人類学会）	平成元年三月二十四日	
ヤマトタケル―栄光なき軍旅―	『歴史読本』第三四巻第七号（新人物往来社）	平成元年四月一日	
記紀に見える組織・官制・位階	『別冊歴史読本・事典シリーズ第25号『古事記』『日本書紀』総覧』（新人物往来社）	平成元年六月二十七日	のち『日本古代史「記紀・風土記」総覧』（新人物往来社、平成十年三月十六日）に再録。
三枝（福草）部について―その性格と伝承―	遠藤元男編『古代史論集1　関東の古代』（名著出版）	平成元年六月三十日	
古代王権と豪族―部民制を介してのスケッチ―	『古代史研究の方法と課題』（国書刊行会）	平成元年十月十三日	
邪霊鎮魂の司祭者　物部連	『歴史読本』臨時増刊第三五巻第六号（新人物往来社）	平成二年三月十四日	
三輪の御子神の祭祀と信仰	『大美和』七九（大神神社）	平成二年七月一日	
大嘗祭と新嘗祭の地域的構造	『國學院雑誌』第九一巻第七号（國學院大学）	平成二年七月十五日	「〈特集〉創刊一〇〇〇号記念　大嘗祭をめぐる諸問題」
耀歌	『常陽藝文』（財団法人常陽藝文センター）	平成二年十二月一日	特集「常陸国風土記」。のち、「常陽藝文」編集部編『常陸国風土記』（常陽藝文センター、平成四年八月一日）に再録。

論文名	掲載誌	発行年月日	備　考
パネルディスカッション　古代・中世の八代―外交流を中心に―	熊本地名研究会編『「八代学」への招待'90全国地名シンポジュウム八代大会』全国地名シンポジュウム八代大会実行委員会）	平成三年三月二十五日	
『日本書紀』の大王の物語（巻一〇～二二）	武光誠編『『日本書紀』のすべて』（新人物往来社）	平成三年七月十五日	
『延喜式』にみえる小子部（子部）氏に就いて	『神道大系　月報』一〇四（神道大系編纂会）	平成三年十月	刊行日付なし。『神道大系』「延喜式（上）」（神道大系編纂会、平成三年十月三十一日）附録
古代史より見た九州の役割	マリアスB・ジャンセン編『九州と日本の歴史』（シンガポール国立大学日本研究学科）	平成三年	刊行月日の記載なし。一九八九年におこなわれた、シンガポール国立大学文学社会科学部創立六十周年記念のシンポジウム「九州と日本の歴史」の記録集。Japanese Studies Monograph Series No.1
天語連と神魂命系氏族	『東アジアの古代文化』七二（大和書房）	平成四年七月三十一日	特集　古代の氏族
嬢歌（かがい）・鹿島の神のルーツ・ヤマト朝廷と常陸国の関係	「常陽藝文」編集部編『常陸国風土記』（常陽藝文センター）	平成四年八月一日	「嬢歌（かがい）」は、『常陽藝文』（財団法人常陽藝文センター）九―（平成二年十二月一日）所載の同名論文の再録。
古代国家の成立	『日本史学集録』（筑波大学日本史談話会）一五	平成四年十一月三十日	筑波大学での退官記念講演の速記録。
古代の安房国―大和王権と部民制を中心に―	『社会文化史学』三二（社会文化史学会）	平成六年三月二十五日	

論文名	掲載誌	発行年月日	備　考
「魏志倭人伝」の中の地名	『歴史読本特別増刊　事典シリーズ　日本「歴史地名」総覧』第三九巻第二〇号（通巻六二八号）（新人物往来社）	平成六年十月六日	
土浦をめぐる古代の豪族たち	『広報つちうら』六五八（土浦市）	平成七年一月一日	
大化前代の上総の豪族と部民制	『日本歴史』五六一（日本歴史学会）	平成七年二月一日	研究余録
流海（霞ヶ浦）をめぐる古代豪族	上高津貝塚ふるさと歴史の広場・土浦市立博物館編『霞ヶ浦　第Ⅰ部人と神と水と　第Ⅱ部湖のくらし』（上高津貝塚ふるさと歴史の広場）	平成七年十月十六日	上高津貝塚ふるさと歴史の広場開館記念特別展・土浦市立博物館第15回特別展　展示図録
古代庶民の哀歓の歌	『広報つちうら』六八二（土浦市）	平成八年一月一日	
五世紀における房総と大和政権	『東アジアの古代文化』八七（大和書房）	平成八年五月五日	
九州の古代と火の君	熊本地名研究会編『「火の国」の原像一九九五（熊本地名シンポジウム　第十回）』（熊本地名研究会）	平成八年八月二十日	
地方豪族の神話と祭祀	大林太良・吉田敦彦他著『古代史と日本神話』（大和書房）	平成八年十一月三十日	『東アジアの古代文化』八七（大和書房）（昭和五十年十二月二十五日）所載の論文の再録。
常陸の名国司藤原宇合	『広報つちうら』七〇六（土浦市）	平成九年一月一日	

論文名	掲載誌	発行年月日	備　考
太陽祭祀と古代氏族―日置部を中心として―	松前健・白川静他著『古代日本人の信仰と祭祀』（大和書房）	平成九年一月五日	『東アジアの古代文化』一二四（大和書房）（昭和五十五年七月三十日）所載の論文の再録。
日本古代の婚姻形態　万葉集を中心として	『米沢史学』一三（米沢女子短期大学）	平成九年六月十日	
日本古代の生命感	『ＪＩＵ国際総合講座』第三集（城西国際大学）	平成十一年十月三十一日	「ＪＩＵ国際総合講座２日本文化」巻末に司会者との質疑応答あり。
常陸介、菅原孝標とその娘―家族の別れと愛と―	『広報つちうら』七三〇（土浦市）	平成十年一月一日	
倭文神の祭祀と信仰	『東アジアの古代文化』九四（大和書房）	平成十年二月五日	特集古代祭祀と王権
「記紀・風土記」に見る組織・官制・位階	『日本古代史「記紀・風土記」総覧』（新人物往来社）	平成十年三月十六日	別冊歴史読本事典シリーズ35。平成元年六月二十七日刊行の『古事記』『日本書紀』総覧』の原稿の再録。
歌垣と土浦	『広報つちうら』七五四（土浦市）	平成十一年一月一日	
蘇我の宗家と東国	井上辰雄編『古代東国と常陸国風土記』（雄山閣出版）	平成十一年六月五日	
雄略朝期の南関東―上総長柄郡の場合―	『東アジアの古代文化』一〇〇（大和書房）	平成十一年八月三十日	
土浦と「聖徳太子」	『広報つちうら』七七八（土浦市）	平成十二年一月一日	
シンポジウム歴史人類学会　―創立二十周年の回顧と展望―（創立二十周年記念講演・シンポジウム）	『史境』四〇（歴史人類学会）	平成十二年三月二十五日	〈出席者〉井上辰雄・西澤龍生・増田精一〈司会〉明石紀雄
『日本三代実録』とその時代　応天門の変	『歴史読本』第四五巻第九号（新人物往来社）	平成十二年六月一日	特集『日本書紀』と謎の古代歴史書六国史とその時代

論文名	掲載誌	発行年月日	備考
西国における「ソガ部」と「壬生部」	『史聚』三三（史聚会）	平成十二年九月二十日	
推古女帝と土浦	『広報つちうら』八〇二（土浦市）	平成十三年一月一日	
三輪君と上宮家	『大美和』一〇〇（大神神社）	平成十三年一月一日	
『常陸国風土記』に於ける壬生部とその豪族	『茨城県史研究』八五	平成十三年一月三十一日	
大化前代の「名代部」「舎人」と古代の馬牧	『東アジアの古代文化』一〇六（大和書房）	平成十三年二月五日	
検証 筑紫王国	『別冊歴史読本』第二六巻第一〇号（新人物往来社）	平成十三年四月十四日	
檀林皇后とそれをめぐる偶像たち	『日本歴史』六四〇（日本歴史学会）	平成十三年九月一日	研究余録 ↓ 嵯峨　ただし、加筆あり。
一言主の神	『広報つちうら』八二六（土浦市）	平成十四年一月一日	
古今の夢	『熊本日日新聞』	平成十四年一月三日～同年十二月三十日	ほぼ一年間毎日朝刊に掲載された一連の連載。その後、記事は合本して私家版で刊行された。
玄賓僧都とその追慕者たち	『城西国際大学紀要』（人文学部）第一〇巻第二号	平成十四年三月三十一日	
二つの「ワカタケル」の鉄剣銘―その政治的背景	『東アジアの古代文化』一一〇	平成十四年二月十日	
筑紫君磐井―新羅遠征を阻止した大豪族―	『AERA Mook82古代史がわかる』（朝日新聞社）	平成十四年八月十日	検証古代日本幻の王国　論点幻の古代王国
巻頭史論 古代史料の読み方学び方	『歴史読本』第四八巻第一号（新人物往来社）	平成十五年一月一日	特集徹底検証謎の古代文書　『古事記』『日本書紀』の再検証

論文名	掲載誌	発行年月日	備　考
鷲神社の由来	『広報つちうら』八五〇（土浦市）	平成十五年一月一日	
源融―平安初期の「風雅の貴公子」―	『城西国際大学紀要』（人文学部）一一―二	平成十五年三月三十一日	→嵯峨　ただし、加筆あり。
「建部」―その統治的性格―	『城西国際大学紀要』（人文科学編）六	平成十五年三月三十一日	
那珂国造とヤマト王権	『常総の歴史』二九（崙書房）	平成十五年七月十五日	「『常陸国風土記』研究特集」号
八坂神社	『広報つちうら』八七四（土浦市）	平成十六年一月一日	
大化前代の天草国造―その政治史的意義―	『城西国際大学紀要』（人文学部）一二―一	平成十六年三月三十一日	
鹿島社と土浦	『広報つちうら』八九八（土浦市）	平成十七年一月一日	
紀夏井―清爽な文人官僚―	『史聚』三九・四〇合併号	平成十九年三月七日	→文人
―帷幄の良吏―藤原冬嗣	『城西国際大学紀要』（人文学部）一五―二	平成十九年三月三十一日	→嵯峨　ただし、加筆あり。
嵯峨天皇	『城西国際大学大学院紀要』一〇	平成十九年三月三十一日	→嵯峨ただし、収録にあたって全面的に改稿。
紀長谷雄―節操の文人―	『城西国際大学紀要』（人文学部）一六―二	平成二十年三月三十一日	→文人
大宝二年の筑前国志麻郡の戸籍	『東アジアの古代文化』一三七（最終号）（大和書房）	平成二十一年一月十五日	
筑波古代史とつくばの地名	『つくばレポート』（つくば書店レポート部）三	平成二十三年七月一日	

論文名	掲載誌	発行年月日	備　考
古代の熊本―その先進性について―	『公徳』一二三（一般財団法人熊本公徳会）	平成二十五年十二月二十日	平成二十五年八月十日に行われた「熊本の古代文化を学ぼう関連講演会」（熊本公徳会・熊本地名研究会共催）の速記録。
【歴史随想】『常陸国風土記』と藤原氏	『茨城県史研究』九八	平成二十六年三月三十一日	特集・常陸国風土記一三〇〇年

【その他】

題　名	掲載誌	発行年月日	備　考
実証主義を貫く古代国家成立の研究	『田中卓著作集』（国書刊行会）内容見本	昭和六十年四月	推薦文。内容見本自体には刊行年月日がないので、便宜上、同著作集の第一回配本第三巻「邪馬台国と稲荷山鉄刀」の刊行年月日を掲げる。
開会のあいさつ	『史境』一二（歴史人類学会）	昭和六十一年三月三十一日	昭和六十一年十一月十七日におこなわれた歴史人類学会主催のシンポジウム「中央と周縁」（司会井上辰雄・野口鐵郎・岩崎宏之、於国立教育会館）の開会のあいさつ。
インタビュー　常陸国風土記の世界	毎日グラフ別冊『古代史を歩く』5東国（毎日新聞社）	昭和六十二年四月三十日	石倉明（インタビュアー）
熊本での想出	『坂本太郎著作集』第三巻「六国史」付録（吉川弘文館）	昭和六十四年（平成元年）一月十日	
『歴代鎮西志』の刊行を嬉ぶ	『歴代鎮西志内容見本』	平成五年七月	『歴代鎮西志』上・下・総索引（青潮社、平成五年八月）の復刻に寄せたもの。
現代に息づく古事記のことば	『公徳』一五（一般財団法人熊本公徳会）		平成二十年七月五日に開催された文化講演会（熊本公徳会他主催、熊本市総合体育館青年会館大ホール）の「講演詳報」。
推薦の言葉	『続・田中卓著作集全六巻』内容見本	平成二十三年十二月十二日	発行年月日の記載なければ、便宜上第一巻の刊行年月日にかけて掲げる。

【辞書項目】

項目名	事典名	発行年月日	備考
語部・国栖（山の民）・防人・正税帳・玉造部・筑紫国・土蜘蛛（古代）・火の国	『日本大百科全書』全二十五巻（小学館）	昭和五十九年十一月二十日～平成元年三月十日	
飽田郡・葦北郡・阿蘇郡・天草郡・医疾令・衣服令・宇土郡・上益城郡・合志郡・官位令・学令・菊池郡・厩牧令・儀制令・宮衛令・球磨郡・軍防令・継嗣令・假寧令・関市令・考課令・後宮職員令・戸別の調・戸令・獄令・田の調・隼人・肥人・弭調手末調	『国史大辞典』（吉川弘文館）		
忌部氏・卜部氏・熊襲・値嘉島・隼人・隼人司・日置部・肥後国・肥前国・肥の国（火の国）・日祀部	『世界大百科事典』全三十四巻（平凡社）	昭和六十三年三月十五日初版・平成十七年二月一日改訂版・同十九年九月一日改訂新版	昭和五十九年十一月二日～同六十年六月二十八日刊行の『平凡社大百科事典』全十六巻にも再録。
阿蘇信仰・大隅・狗奴国・筑前・筑後・隼人・肥後・肥前・常陸・常陸国風土記・日向・豊後・豊前・屯倉	『世界歴史大事典』全二十二巻（教育出版センター）	平成三年九月二十五日～同四年一月二十二日新装版二十二巻、平成七年九月二十八日スタンダード版二十一巻	
正税帳の研究	黒田日出男・加藤友康・保谷徹・加藤陽子編『日本史文献事典』（弘文堂）	平成十五年十二月十五日	
甘美内宿禰・大伴磐・大伴武日・大山守皇子・椋部・秦久麻・郷司・救急院・救急料・歳役・防人・防人司・准布・代（頃）・随身・寧楽遺文・日本書紀纂疏・日置田・法王・真間手兒奈	『日本歴史大辞典』（河出書房）全二十二巻	昭和三十一年五月三十日～同三十九年二月十五日、のち昭和四十三年に増補改訂版全十二巻、昭和六十年一月三十一日～同六十一年一月三十一日普及新版全十二巻	
忌部氏・卜部氏・熊襲・隼人・隼人司・日置部・日祀部	日本史大事典（平凡社）全七巻	平成四年十一月十八日～同六年五月十八日	

項目名	事典名	発行年月日	備考
飽田郡・加挙・救急院・給田・給名・計会帳・計帳・計帳使・検税使・郷司・兵庫司・兵庫陣・兵庫寮・振入・日置田	角田文衛監修、古代学協会・古代学研究所編『平安時代史事典』本編上・下（角川書店）	平成六年四月十日	CD版もおなじ。

Dr. Tatsuo Inoue and His Achievements

Yoshiyuki IBARAKI

Abustract

Dr. Tatsuo Inoue（1928-2015）is one of the historian who represents the postwar. He specialized in Japanese ancient history and published the results of his research on the Shozeicho（the settlement of accounts of the local government in the Nara era）, the Bemin-sei（subordinate people of ancient clan group）, and so on. He was a professor in Kumamoto University and Tsukuba University and trained many young researchers. In this paper, I made the list of Dr. Inoue's works to help readers to research his achievements.

Keywords：Shozeicho（the settlement of accounts of the local government in the Nara era）, Bemin-sei（subordinate people of ancient clan group）, Fudoki（regional chronicles in Nara era）